

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	2014年6月27日から2029年6月26日まで
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、主として世界各国の株式や債券などに投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	<p>当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。</p> <p>ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド（クラスX2）</p> <p>世界各国の株式や債券</p> <p>マネー・マーケット・マザーファンド</p> <p>円貨建ての短期公社債および短期金融商品</p>
当ファンドの運用方法	<p>■主として世界各国の株式や債券など、さまざまな資産への分散投資により信託財産の中長期的な成長を目指します。</p> <p>■実質的な運用は、マルチアセット運用に精通したブラックロック・インベストメント・マネジメント・エル・エル・シーが行います。</p> <p>■米ドル建ての組入れ外国投資信託証券に対し、原則として対円での為替ヘッジを行いません。</p>
組入制限	■外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	<p>■年1回（原則として毎年6月26日。休業日の場合は翌営業日）決算を行い、分配金額を決定します。</p> <p>■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益（評価損益を含みます。）等の範囲内とします。</p> <p>■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。</p> <p>※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p> <p>ファンドは複利効果による信託財産の成長を優先するため、分配を極力抑制します。 (基準価額水準、市況動向等によっては変更する場合があります。)</p>

# 日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド(為替ヘッジなし)

【運用報告書(全体版)】

(2024年6月27日から2025年6月26日まで)

第 11 期

決算日 2025年6月26日

## 受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、主として世界各国の株式や債券などに投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行いました。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。



## 三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1

<https://www.smd-am.co.jp>

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ  
お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976

受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

## 日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド（為替ヘッジなし）

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

### ■最近5期の運用実績

決算期 (分配落)	基準価額		公社債組入比率	投資信託証券組入比率	純資産総額
	税込分配金	期中騰落率			
7期(2021年6月28日)	円 15,909	円 0	% 30.8	% 0.0	% 95.8 百万円 57,739
8期(2022年6月27日)	16,247	0	2.1	0.0	95.2 51,633
9期(2023年6月26日)	18,198	0	12.0	0.0	95.3 53,387
10期(2024年6月26日)	22,481	0	23.5	0.0	94.6 61,306
11期(2025年6月26日)	22,411	0	△0.3	0.0	95.3 56,339

※基準価額の騰落率は分配金込み。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指標がないため、ベンチマークおよび参考指標はありません。

### ■当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		公社債組入比率	投資信託証券組入比率
		騰落率		
(期首) 2024年6月26日	円 22,481	% —	% 0.0	% 94.6
6月末	22,672	0.8	0.0	94.7
7月末	21,436	△4.6	0.0	96.0
8月末	20,880	△7.1	0.0	95.3
9月末	21,027	△6.5	0.0	96.3
10月末	22,245	△1.0	0.0	97.0
11月末	22,052	△1.9	0.0	95.8
12月末	22,834	1.6	0.0	94.9
2025年1月末	22,774	1.3	0.0	95.4
2月末	21,938	△2.4	0.0	95.4
3月末	21,349	△5.0	0.0	96.1
4月末	20,682	△8.0	0.0	95.0
5月末	21,673	△3.6	0.0	95.7
(期末) 2025年6月26日	22,411	△0.3	0.0	95.3

※騰落率は期首比です。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

# 1 運用経過

基準価額等の推移について(2024年6月27日から2025年6月26日まで)

## 基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期 首	22,481円
期 末	22,411円 (既払分配金0円(税引前))
騰 落 率	-0.3% (分配金再投資ベース)

## 分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

### 基準価額の主な変動要因(2024年6月27日から2025年6月26日まで)

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主として世界各国の株式や債券など、さまざまな資産へ分散投資を行いました。実質組入外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行っていません。

なお、運用指図に関する権限の一部をブラックロック・ジャパン株式会社に委託しています。

#### 上昇要因

- 経済ファンダメンタルズ(基礎的条件)が底堅さを維持したことなどから、株式が上昇したこと
- 主要中央銀行の利下げ開始を受けて金利が低下(債券価格が上昇)したこと

#### 下落要因

- 日米の金利差の縮小などから米ドル安・円高が進行したこと

## 投資環境について(2024年6月27日から2025年6月26日まで)

世界の株式市場および債券市場は上昇しました。為替市場では米ドルが円に対して下落しました。

### 株式市場

世界の株式市場は、上昇しました。インフレが減速し F R B (米連邦準備制度理事会)をはじめとする中央銀行は利下げを開始したことや、トランプ政権による関税懸念が高まるなかでも経済ファンダメンタルズが底堅く推移したことから、株式市場は上昇しました。

### 債券市場

世界の債券市場は、上昇しました。F R B

をはじめとする中央銀行は利下げを開始したことなどが好感され、債券市場は堅調に推移しました。

### 為替市場

為替市場は、期初と比較して期末の円相場は、米ドルに対して円高となりました。日米の金利差の縮小やトランプ政権の関税政策などを受けた米ドルからの資金流出が、円高圧力となりました。

## ポートフォリオについて(2024年6月27日から2025年6月26日まで)

### 当ファンド

「ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド(クラス X 2)」の組入れを高位に保ちました。

### ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド(クラス X 2)

市場環境の変化に事前予防的に対応する方針の下、株式、債券、現金などの各資産クラスの配分を機動的に変更しました。

株式については配分を引き下げました。長期的な構造的トレンドを見据え、業績が安定的に成長すると考えられる企業を選別的に保有しています。セクター別では、通信サービ

## 日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド（為替ヘッジなし）

ス、一般消費財、エネルギー、ヘルスケアなどを中心にオーバーウェイトとしました。情報技術セクターではAIの普及に恩恵を受けると考えるソフトウェア企業を選別して保有する一方、バリュエーション(投資価値評価)の割高感などを勘案し半導体やハードウェア企業の保有を削減しました。また、ヘルスケアセクター内では、魅力的な製品を提供し、高い収益の伸びが期待できる企業のポジションを増やし、高齢化の進展や健康志向の高まりから恩恵を受ける可能性のある医療機器メーカーを引き続き選好しています。

債券については配分を少し引き上げました。デュレーション(投資資金の平均回収期間：金利の変動による債券価格の感応度)については成長見通しが鈍化していることや、FRBが年内に追加利下げを行う可能性があることなどを踏まえて、小幅に長期化しました。利回りカーブについては、中期～長期を選好するものの、財政拡大の影響を最も受けたと考える超長期ゾーンは保有を限定的にとどめています。米国外の先進国国債について、運用チームは欧州国債に対して建設的な見方を維持していますが、ポートフォリオ全体のリスク・バランスを改善し、インカム収入を増やすために、より魅力的な利回りが期待できる一部の新興国国債への配分を増やしています。

商品関連については配分を引き上げました。米国の財政赤字が拡大する中、金は「価値の保存手段」としての役割を果たしており、

ポートフォリオに組み入れることで分散効果を高めることができます。

### ●株式

6月末の67%程度から、米国経済は底堅さを維持している中、株式への高位の配分を維持し、2025年5月末時点では59%程度としました。

### ●債券

6月末の27%程度から、景気減速と利下げ局面に備え配分比率を引き上げ、2025年5月末時点では30%程度としました。

### ●商品関連

6月末の0%程度から、分散効果を高めるため配分を引き上げ、2025年5月末時点では3%程度としました。

### ●現金等

株式の配分を下げたことにより、6月末の6%程度から2025年5月末時点では7%程度としました。

---

### マネー・マーケット・マザーファンド

主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行いました。

ベンチマークとの差異について(2024年6月27日から2025年6月26日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

分配金について(2024年6月27日から2025年6月26日まで)

(単位：円、1万口当たり、税引前)

項目	第11期
当期分配金	0
(対基準価額比率)	(0.00%)
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	12,410

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。  
※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

期間の分配は、複利効果による信託財産の成長を優先するため、見送りといたしました。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

## 2 今後の運用方針

### 当ファンド

引き続き「ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド(クラスX 2)」の組入れを高位に保ちます。

### ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド(クラスX 2)

2025年、米国経済は拡大基調を維持し、株式市場も堅調に推移すると見込まれます。しかし、トランプ政権による通商政策をめぐ

る不透明感が根強く、成長見通しはやや下方修正しています。足元では、消費者マインドや企業の景況感を示す経済指標が市場予想を下回っており、先行きに対する不透明感が高まるなかで、企業は設備投資やM&A(企業の合併・買収)、人員採用などを慎重に進める姿勢が見られます。

米国の労働市場は引き続き底堅いものの、連邦政府支出の削減が想定されるなか、教育・医療などこれまで雇用創出に貢献してきた分野での採用活動が鈍化する可能性があります。さらに、長期的には米国の構造的な財政赤字が最大のリスク要因と考えられます。

## 日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド（為替ヘッジなし）

財政の健全性を回復するには、歳出削減と歳入拡大を両立させる施策が求められますが、こうした対応は短期的に経済成長の下押し要因となる可能性もあります。

これらの見通しを踏まえ、当ファンドではポートフォリオ全体のリスク水準を引き続き慎重に管理します。株式については、良質な成長企業の株式を割安な水準で選別的に組み入れ、市場の上昇局面での収益獲得に努めてまいります。

債券については、米国債は利回り曲線の中期ゾーンを中心に構築しています。スプレッド（国債に対する上乗せ金利）資産については、現在の利回り水準が魅力的であり、ポートフォリオ全体の安定性向上にも寄与することから、引き続き建設的な見方を維持していま

す。

当ファンドは、社債、証券化資産、および新興国のソブリン債（政府や政府機関、国際機関などが発行する債券）への配分を維持しております、これらが債券配分の大部分を占めています。また、リスク許容度を踏まえ、デュレーションを含む様々な手段でポートフォリオ・ヘッジを行っており、デリバティブ（金融派生商品）や金関連証券を保有するとともに、一定のキャッシュ比率と為替ポジションを維持しています。

---

## マネー・マーケット・マザーファンド

円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

## ③ お知らせ

### 約款変更について

- 投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、記載変更を行うため、信託約款に所要の変更を行いました。  
(適用日：2025年4月1日)

# 日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド（為替ヘッジなし）

## 1万口当たりの費用明細(2024年6月27日から2025年6月26日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	450円	2.068%	信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数／年日数) 期中の平均基準価額は21,749円です。 投信会社：ファンド運用の指図等の対価 販売会社：交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファン ドの管理、購入後の情報提供等の対価 受託会社：ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図 の実行等の対価
( 投信会社 )	(251)	(1.155)	
( 販売会社 )	(191)	(0.880)	
( 受託会社 )	(7)	(0.033)	
(b) 売買委託手数料	—	—	売買委託手数料=期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料：有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う 手数料
( 株式 )	(—)	(—)	
(先物・オプション)	(—)	(—)	
(投資信託証券)	(—)	(—)	
(c) 有価証券取引税	—	—	有価証券取引税=期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税：有価証券の取引の都度発生する取引に関する 税金
( 株式 )	(—)	(—)	
( 公社債 )	(—)	(—)	
(投資信託証券)	(—)	(—)	
(d) その他費用	1	0.005	その他費用=期中のその他費用／期中の平均受益権口数 保管費用：海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管お よび資金の送回金・資産の移転等に要する費用 監査費用：監査法人に支払うファンドの監査費用 その他：信託事務の処理等に要するその他費用
( 保管費用 )	(0)	(0.000)	
( 監査費用 )	(1)	(0.005)	
( その他の )	(—)	(—)	
合計	451	2.073	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

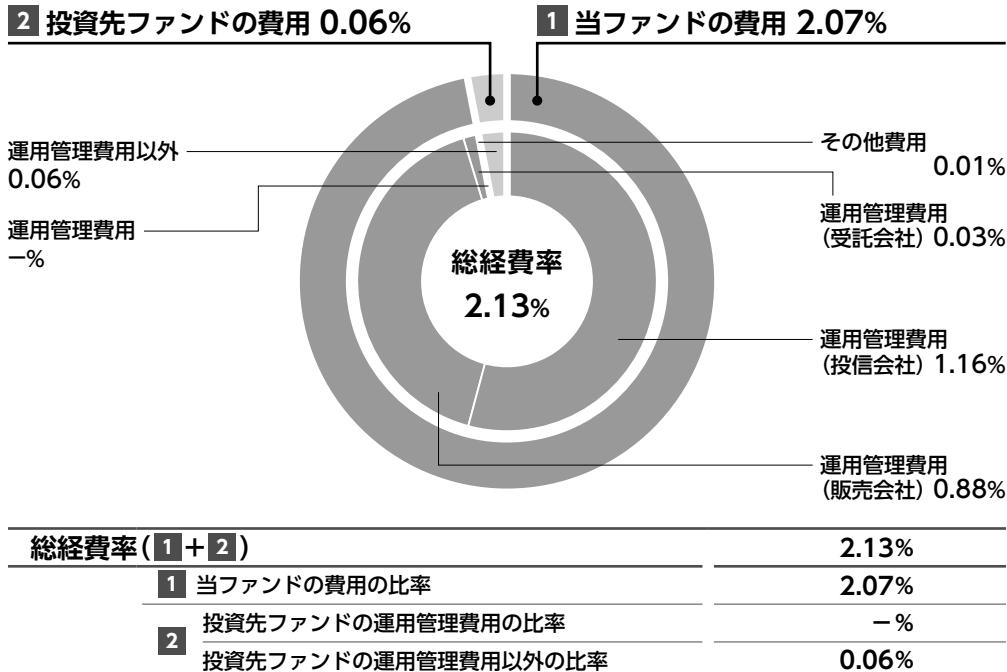
※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額  
のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。



## 参考情報 総経費率(年率換算)



※ ①の各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。

※ ②の投資先ファンド(当ファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く))の費用は、シェアクラスの経費率です。運用管理費用と運用管理費用以外の費用を、目論見書に記載している料率にもとづき区別しています。投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。ただし、投資先ファンドでの運用管理費用は、当ファンドの運用委託報酬の中から負担しているため、開示すべき運用管理費用はありません。

※ ①と②の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。

※ 上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した比率に、投資先ファンドの経費率を加えた総経費率(年率)は2.13%です。

# 日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド（為替ヘッジなし）

## ■当期中の売買及び取引の状況(2024年6月27日から2025年6月26日まで)

### 投資信託証券

			買付		売付	
			口数	買付額	口数	売付額
外 国	ア メ リ カ	ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド (クラスX2)	口 70,561	千アメリカ・ドル 7,398	口 395,424	千アメリカ・ドル 42,435

※金額は受渡し代金。

## ■利害関係人との取引状況等(2024年6月27日から2025年6月26日まで)

### 利害関係人との取引状況

日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド（為替ヘッジなし）

当期中における利害関係人との取引等はありません。

### マネー・マーケット・マザーファンド

区分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	B A	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	D C
公社債	百万円 5,186	百万円 11	% 0.2	百万円 -	百万円 -	% -

※平均保有割合 1.2%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ペーパーファンドの親投資信託所有口数の割合。

利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期における当該ペーパーファンドに係る利害関係人とは、S M B C 日興証券株式会社です。

## ■第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況

(2024年6月27日から2025年6月26日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

## 日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド（為替ヘッジなし）

### ■組入れ資産の明細(2025年6月26日現在)

#### (1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた外貨建ファンドの明細

ファンド名	期首(前期末)		期末		
	口数	口数	評価額		組入比率
			外貨建金額	邦貨換算金額	
(ルクセンブルグ) ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド（クラスX2）	口 3,528,257.03	口 3,203,394.41	千アメリカ・ドル 370,728	千円 53,681,535	% 95.3
合計	3,528,257.03	3,203,394.41	—	53,681,535	95.3

※邦貨換算金額は、期末の時価を日本の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

#### (2) 親投資信託残高

種類	期首(前期末)		期末	
	口数	口数	評価額	千円
マネー・マーケット・マザーファンド	千口 14,208	千口 14,208	—	14,205

※マネー・マーケット・マザーファンドの期末の受益権総口数は1,207,872,716口です。

### ■投資信託財産の構成

(2025年6月26日現在)

項目	期末	
	評価額	比率
投資証券	千円 53,681,535	% 93.8
マネー・マーケット・マザーファンド	14,205	0.0
コール・ローン等、その他	3,530,842	6.2
投資信託財産総額	57,226,583	100.0

※期末における外貨建資産(54,724,548千円)の投資信託財産総額(57,226,583千円)に対する比率は95.6%です。

※外貨建資産は、期末の時価を日本の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=144.80円です。

# 日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド (為替ヘッジなし)

## ■資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2025年6月26日現在)

項目	期末
(A) 資産	<b>57,226,583,545円</b>
コール・ローン等	3,530,842,335
投資証券(評価額)	53,681,535,317
マネー・マーケット・マザーファンド(評価額)	14,205,893
(B) 負債	<b>887,493,510</b>
未払解約金	306,360,320
未払信託報酬	579,760,924
その他未払費用	1,372,266
(C) 純資産総額(A-B)	<b>56,339,090,035</b>
元本	25,139,309,751
次期繰越損益金	31,199,780,284
(D) 受益権総口数	<b>25,139,309,751口</b>
1万口当たり基準価額(C/D)	<b>22,411円</b>

※当期における期首元本額27,270,534,097円、期中追加設定元本額1,066,778,575円、期中一部解約元本額3,198,002,921円です。  
※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

## ■損益の状況

(自2024年6月27日 至2025年6月26日)

項目	当期
(A) 配当等収益	<b>48,790,654円</b>
受取利息	48,790,654
(B) 有価証券売買損益	<b>1,016,894,798</b>
売買益	6,229,919,772
売買損	△5,213,024,974
(C) 信託報酬等	<b>△1,186,944,383</b>
(D) 当期損益金(A+B+C)	<b>△121,258,931</b>
(E) 前期繰越損益金	<b>24,785,885,193</b>
(F) 追加信託差損益金	<b>6,535,154,022</b>
(配当等相当額)	( 5,004,541,390)
(売買損益相当額)	( 1,530,612,632)
(G) 合計(D+E+F)	<b>31,199,780,284</b>
次期繰越損益金(G)	<b>31,199,780,284</b>
追加信託差損益金	6,535,154,022
(配当等相当額)	( 5,004,541,411)
(売買損益相当額)	( 1,530,612,611)
分配準備積立金	24,785,885,193
繰越損益金	△121,258,931

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

※株式投信の信託報酬等には消費税等相当額が含まれており、公社債投信には内訳の一部に消費税等相当額が含まれています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※投資信託財産の運用の指図に係る権限の全部または一部を委託するために要する費用として、信託報酬の中から支弁している額は451,289,290円です。

※分配金の計算過程は以下の通りです。

	当期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0
(c) 収益調整金	6,413,895,091
(d) 分配準備積立金	24,785,885,193
(e) 当期分配対象額(a+b+c+d)	31,199,780,284
1万口当たり当期分配対象額	12,410.75
(f) 分配金	0
1万口当たり分配金	0

## ■分配金のお知らせ

1万口当たり分配金(税引前)

当期

0円

上記のほか、投資信託財産の計算に関する規則第58条第1項各号に該当する事項はありません。

## ■組入れ投資信託証券の内容

### 投資信託証券の概要

ファンド名	ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド（クラスX2）
形態	ルクセンブルグ籍会社型投資信託（米ドル建て）
主要投資対象	世界各国の株式や債券など
運用の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●トータル・リターンを最大化することを目指します。</li> <li>●ファンドは、世界の株式、債券および短期証券に投資します。通常の市況では、純資産の70%以上を国や企業が発行する有価証券に投資します。</li> <li>●ファンドは、割安と判断される有価証券へ投資します。ファンドは、小規模企業および新興国の成長企業の株式に、また債券の投資部分においてはハイ・イールド債券にも投資することができます。</li> <li>●通貨エクスポートージャーについては柔軟に運用します。</li> </ul>
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> <li>●有価証券の空売りは行いません。</li> <li>●純資産総額の10%を超える借入れは行いません。</li> <li>●同一発行体の有価証券等への投資割合は、純資産総額の10%以内とします。</li> <li>●非流動性資産への投資割合は、純資産総額の10%以下とします。</li> </ul>
分配方針	分配を行いません。
運用管理費用	運用報酬はありません。 ※管理および保管に要する費用などがかかりますが、これらはファンドの運用状況等により変動するものであり、事前に料率等を示すことができません。
その他の費用	ルクセンブルグの年次税（年0.01%）、ファンドの設立費用、取引関連費用、法的費用、会計・監査および税務上の費用ならびにその他の費用を負担します。 これらは、ファンドの運営状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。
申込手数料	ありません。
スイング・プライス	ファンドの買付け、売却がポートフォリオに重要な影響を与えると考えられる場合、予想される取引スプレッド、コスト、その他の要因を考慮して、その売買価格が調整されることがあります。
投資顧問会社	ブラックロック・インベストメント・マネジメント・エル・エル・シー
購入の可否	日本において一般投資者は購入できません。

以下には、「ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド（クラスX2）」をシェアクラスとして含む「ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド」の情報を委託会社において抜粋、要約して翻訳したものを記載しています。

日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド（為替ヘッジなし）

**■ 損益及び純資産変動計算書（2024年8月31日に終了した期間）**

(単位：米ドル)

期首純資産	14,455,276,896
収益	
現金及び現金同等物に係る受取利息	49,866,842
債券利息（源泉税控除後）	241,358,857
スワップ利息	56,915,246
短期金融市場預託金利息	6,038,606
集団投資スキーム収益（源泉税控除後）	364,410
配当金（源泉税控除後）	130,402,245
有価証券貸付収益	3,335,299
管理報酬リペート	40,911
その他払い戻し	26,046
収益合計	488,348,462
費用	
スワップ利息	62,390,568
年間サービス料	26,805,231
貸付委託費用	69,844
保管および預託報酬	899,625
販売報酬	13,574,730
税金	6,539,082
管理報酬	180,418,914
費用合計	290,697,994
純損益	197,650,468
以下に係る実現純損益：	
投資有価証券	899,448,648
TBA証券取引契約	3,944,639
上場先物取引	8,629,078
オプション／スワップション契約	148,270,969
スワップ取引	(84,326,863)
為替先渡取引	(135,559,405)
その他の取引に係る外国通貨	(4,000,918)
当期実現純損益	836,406,148

## 日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド（為替ヘッジなし）

以下に係る未実現損益の純変動額：

投資有価証券	843, 796, 219
TBA証券取引契約	666, 756
上場先物取引	21, 746, 832
オプション／swapp option契約	1, 991, 331
swapp取引	38, 619, 362
為替先渡取引	134, 687, 711
その他の取引に係る外国通貨	421, 628
当期末実現損益の純変動額	<u>1, 041, 929, 839</u>
運用による純資産の増減額	<u>2, 075, 986, 455</u>
資本の変動	
投資証券発行による正味受取額	1, 944, 139, 111
投資証券買戻しによる正味支払額	(3, 193, 584, 768)
資本の変動による純資産の増減額	<u>(1, 249, 445, 657)</u>
配当金宣言額	<u>(30, 998, 037)</u>
期末純資産	<u>15, 250, 819, 657</u>

### ■組入上位銘柄(基準日：2024年8月30日)

銘柄名	組入比率
MICROSOFT CORP	2. 5%
NVIDIA CORP	2. 1%
GERMANY (FEDERAL REPUBLIC OF) 2. 3 02/15/2033	2. 0%
APPLE INC	1. 9%
AMAZON COM INC	1. 5%
ALPHABET INC CLASS C	1. 4%
UK CONV GILT 1. 25 07/22/2027	1. 3%
TREASURY NOTE 4. 125 07/31/2028	1. 3%
AUSTRALIA (COMMONWEALTH OF) 1 11/21/2031	1. 2%
GERMANY (FEDERAL REPUBLIC OF) 1. 7 08/15/2032	1. 1%

※比率は、純資産総額に対する割合です。

# マネー・マーケット・マザーファンド

第14期（2024年3月2日から2025年3月3日まで）

信託期間	無期限（設定日：2011年5月31日）
運用方針	主として、円貨建の短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

## ■最近5期の運用実績

決算期	基準価額	期中騰落率		公社債組入比率	純資産額
		円	%		
10期(2021年3月1日)	10,002		△0.1	75.9	76
11期(2022年3月1日)	9,994		△0.1	76.0	76
12期(2023年3月1日)	9,991		△0.0	74.7	76
13期(2024年3月1日)	9,986		△0.1	74.7	76
14期(2025年3月3日)	9,987		0.0	98.2	1,206

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指標がないため、ベンチマークおよび参考指標はありません。

## ■当期中の基準価額と市況等の推移

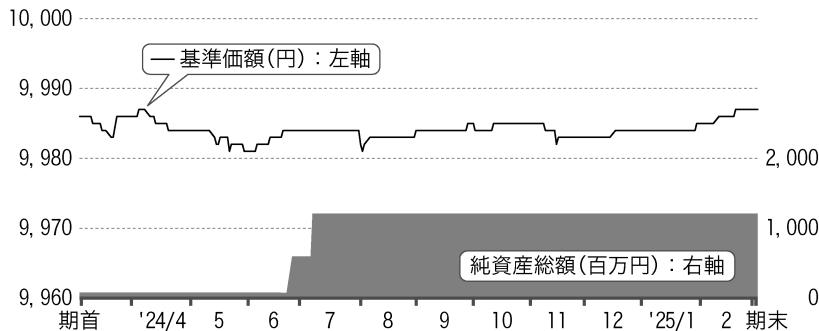
年月日	基準価額	期中騰落率		公社債組入比率	純資産額
		騰落率	%		
(期首) 2024年3月1日	円 9,986		—		74.7
3月末	9,986	0.0		74.6	
4月末	9,984	△0.0		74.6	
5月末	9,981	△0.1		74.5	
6月末	9,984	△0.0		97.0	
7月末	9,982	△0.0		98.5	
8月末	9,984	△0.0		98.6	
9月末	9,985	△0.0		98.4	
10月末	9,985	△0.0		98.4	
11月末	9,983	△0.0		98.4	
12月末	9,984	△0.0		98.2	
2025年1月末	9,985	△0.0		98.2	
2月末	9,987	0.0		98.2	
(期末) 2025年3月3日	9,987	0.0		98.2	

※騰落率は期首比です。

## ① 運用経過

### ▶ 基準価額等の推移について(2024年3月2日から2025年3月3日まで)

#### 基準価額等の推移



### ▶ 基準価額の主な変動要因(2024年3月2日から2025年3月3日まで)

当ファンドは、円建ての公社債および短期金融商品などへ投資しました。

#### 上昇要因

- ・日銀が2024年3月にマイナス金利政策を解除し、7月や2025年1月に追加利上げを行ったことを受け、短期公社債や短期金融商品の利回りが上昇したこと

### ▶ 投資環境について(2024年3月2日から2025年3月3日まで)

短期金利は上昇しました。

円安進行などの影響から物価上昇率が高止まりし、CPIコア（生鮮食品除く消費者物価指数）は前年比+2%以上での推移となりました。日銀は物価目標の実現が見通せる状況に至ったと判断し、2024年3月に開催された金融政策決定会合で、日銀当座預金付利金利を0.1%に引き上げることで無担保コール翌日物金利を0~0.1%程度で推移するよう促すことを決定しました。さらに、7月の金融政策決定会合で追加利上げを決定し、無担保コール翌日物の誘導目標を0.25%

程度としました。2025年1月の金融政策決定会合でも追加利上げを決定し、無担保コール翌日物の誘導目標を0.50%程度まで引き上げました。

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、期初にマイナス圏で始まった後、日銀によるマイナス金利政策解除後はプラス圏に上昇しました。また、7月の追加利上げ後には利回りはさらに上昇しました。その後は、日銀の資金供給オペの担保として国庫短期証券へのニーズが強まる一方、発行額が段階的に減額されたことから、利回りの上昇幅が縮小しました。しかし、11月以降は追加利上げ観測が高まり、実際に日銀が1月に追加利上げを決定したことから、期末にかけて利回りは上昇基調となりました。

---

▶ ポートフォリオについて(2024年3月2日から2025年3月3日まで)

---

残存1年3ヵ月までの円建ての公社債および短期金融商品で構築したポートフォリオを維持しました。また、短期公社債や短期金融商品の利回りがプラスに転じたことから、利子等の安定した収益の確保を目指して運用を行いました。

---

▶ ベンチマークとの差異について(2024年3月2日から2025年3月3日まで)

---

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

## ② 今後の運用方針

国内景気は、賃金上昇による消費の下支えや堅調な設備投資意欲、海外経済の底堅さを背景に、緩やかな成長軌道が続く見通しです。CPIコア（生鮮食品除く消費者物価指数）の前年比伸び率は、コストプッシュ圧力の減衰が見込まれる一方で賃金上昇に伴いサービス価格が上昇することにより、+2%程度の伸び率を維持できる見通しです。物価安定の目標達成が視野に入り、上振れリスクも意識される中で日銀が利上げを継続する姿勢を示していることは金利の上昇要因ですが、短期市場での根強い資金運用ニーズが金利上昇を抑制する見込みです。

引き続き残存1年3ヵ月までの円建ての公社債および短期公社債で構築したポートフォリオを維持し、利子等の安定した収益の確保を目指して運用を行います。

## マネー・マーケット・マザーファンド

### ■ 1万口当たりの費用明細(2024年3月2日から2025年3月3日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) その他費用 (その他)	0円 (0)	0.000% (0.000)	その他費用=期中のその他費用/期中の平均受益権口数 そ の 他：信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	0	0.000	

期中の平均基準価額は9,984円です。

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

### ■ 当期中の売買及び取引の状況(2024年3月2日から2025年3月3日まで)

公社債

		買付額	売付額
国 内	国 債 証 券	千円 4,580,315	千円 — (3,425,000)
	特 殊 債 券	—	— (28,000)

※金額は受渡し代金。(経過利子分は含まれておりません。)

※( )内は償還等による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

### ■ 利害関係人との取引状況等(2024年3月2日から2025年3月3日まで)

利害関係人との取引状況

区分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	B A	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	D C
公 社 債	百万円 4,580	百万円 11	% 0.3	百万円 —	百万円 —	% —

利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期における当ファンドに係る利害関係人とは、SMB C 日興証券株式会社です。

### ■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2024年3月2日から2025年3月3日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

## ■組入れ資産の明細(2025年3月3日現在)

公社債

## A 債券種類別開示

国内(邦貨建)公社債

区分	期			うちBB格以下 組入比率	末			
	額面金額	評価額	組入比率		残存期間別組入比率		2年未満	
					5年以上	2年以上		
国債証券	千円 1,185,400 (1,185,400)	千円 1,184,611 (1,184,611)	% 98.2 (98.2)	% — (—)	% — (—)	% — (—)	% 98.2 (98.2)	
合計	1,185,400 (1,185,400)	1,184,611 (1,184,611)	98.2 (98.2)	— (—)	— (—)	— (—)	98.2 (98.2)	

※()内は非上場債で内書きです。

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

## B 個別銘柄開示

国内(邦貨建)公社債

種類	銘柄	期末			
		利率	額面金額	評価額	償還年月日
国債証券	1226国庫短期証券 1286国庫短期証券 144 5年国債 1257国庫短期証券 1276国庫短期証券	% — — 0.1000 — —	千円 14,000 1,132,000 14,000 13,400 12,000	千円 13,994 1,131,315 13,988 13,366 11,947	2025/04/21 2025/05/12 2025/06/20 2025/09/22 2025/12/22
	小計	—	1,185,400	1,184,611	—
	合計	—	1,185,400	1,184,611	—

## ■投資信託財産の構成

(2025年3月3日現在)

項目	期末	
	評価額	比率
公社債	千円 1,184,611	% 98.2
コール・ローン等、その他	21,710	1.8
投資信託財産総額	1,206,321	100.0

# マネー・マーケット・マザーファンド

## ■資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2025年3月3日現在)

項目	期末
(A) 資産	1,206,321,409円
コール・ローン等	21,707,340
公社債(評価額)	1,184,611,295
未収利息	2,774
(B) 純資産総額(A)	1,206,321,409
元本	1,207,872,716
次期繰越損益金	△ 1,551,307
(C) 受益権総口数	1,207,872,716口
1万口当たり基準価額(B/C)	9,987円

※当期における期首元本額76,632,575円、期中追加設定元本額1,133,894,244円、期中一部解約元本額2,654,103円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※期末における元本の内訳は以下の通りです。

高成長インド・中型株式ファンド	17,711,132円
アジア好利回りリート・ファンド	99,971円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド(為替ヘッジあり/年1回決算型)	7,742,960円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド(為替ヘッジなし/年1回決算型)	1,337,053円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド(為替ヘッジあり/3ヶ月決算型)	4,909,194円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド(為替ヘッジなし/3ヶ月決算型)	1,456,790円
日興ブックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド(為替ヘッジなし)	14,208,735円
日興ブックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド(限定為替ヘッジ)	1,237,272円
アジア好利回りリート・ファンド(年1回決算型)	997円
グローバル自動運転関連株式ファンド(為替ヘッジあり)	4,140,881円
グローバル自動運転関連株式ファンド(為替ヘッジなし)	11,065,647円
グローバリング・フロンティア株式ファンド	2,185,185円
高成長インド・中型株式ファンド(年1回決算型)	7,882,655円
フォントベル・世界創安債券ファンド(為替ヘッジあり/年1回決算型)	20,035円
フォントベル・世界創安債券ファンド(為替ヘッジなし/年1回決算型)	20,035円
フォントベル・世界創安債券ファンド(為替ヘッジあり/年4回決算型)	20,035円
フォントベル・世界創安債券ファンド(為替ヘッジなし/年4回決算型)	20,035円
トータルヘッジ用ファンドMUT 1号<適格機関投資家限定>	1,133,814,104円

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

## ■お知らせ

### <約款変更について>

該当事項はございません。

## ■損益の状況

(自2024年3月2日 至2025年3月3日)

項目	当期
(A) 配当等収益	615,964円
受取利息	616,135
支払利息	△ 171
(B) 有価証券売買損益	△ 248,197
売買益	35,376
売買損	△ 283,573
(C) その他費用等	△ 187
(D) 当期損益金(A+B+C)	367,580
(E) 前期繰越損益金	△ 109,083
(F) 解約差損益金	4,440
(G) 追加信託差損益金	△ 1,814,244
(H) 合計(D+E+F+G)	△ 1,551,307
次期繰越損益金(H)	△ 1,551,307

※有価証券売買損益は期末の評価換算によるものを含みます。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。